

■児童の学力の状況

- 各教科において長い文章（問題文や資料）から重要な言葉を読み取り、文章の趣旨や問題の意図をとらえることができていない。
- 問題を現実社会と結びつけて考えたり、問題を具体的に想像したりしながら考えることができていない。
- 話し合いの趣旨に応じた発言をしたり、発言者の意図を聞き取ったりすることができない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 意見交換や、振り返りなど、自分の考えを自分の言葉でまとめ表現する活動を丁寧に行う必要がある。
- よく読み、理解し、必要な情報を整理し、発信する手法を身に付けさせる必要がある。
- 既習事項を定期的に振り返ることができる学習の機会を確保する必要がある。
- 学習内容を社会的事象と結びつけ、体験的な学習をする必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 「板橋区授業スタンダード」の実施を徹底する。
- 一斉指導の中で、子どもの声をつなげて授業を進める、一問繋答型の授業を展開する。
- 振り返りの時間を確保する。
- 1単位時間に認識、思考、表現の流れを取り入れ、読み解く力を身に付ける指導を実施する。
- 朝の時間には計画的に学習と読書を実施する。
- 「学力向上推進週間」には、「ステップアップ・タイム」や朝学習の時間を活用し、個に応じた指導の充実を図る。
- 「家庭学習の手引き」を作成し、保護者と協力して、児童に家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 「しみず学びのエリア」での小中一貫教育に向けて、9年間で力が身に付くよう学習規律や学び方の共通化を図る。
- 教材開発、指導法の工夫など、日常的な授業改善に努め、分かる授業、楽しい授業を進める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ○1時間の中に「INPUT」「THINK」「OUTPUT」を組み込んだ授業を展開する。 ○具体的なゴールをイメージできるめあてを設定する。 ○「伝えたい、他の人の考えを聴きたい」と思えるように相手意識を持たせて自力解決をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団解決のゴールを明確にする。 ○積極的に一問繋答型の学習活動を取り入れ、共に考える力、表現する力を育成する。 ○クロームブックやミニホワイトボードを使って思考を共有し、話し合いの活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめを自分の言葉で書けるよう、振り返りの時間を十分にとる。 ○振り返りでは、学習内容に関わるキーワードを示し、めあてに即して、自分の学びを客観的に捉えられるようにする。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
<ul style="list-style-type: none"> ○発言したいときは黙って手を挙げる。 ○話すときには、適切な声の大きさやスピードで、相手に聞いてもらえるように話す。 ○意見を繋げる時は前の発言者の意見を反映させるなど、段階に応じた発言の繋げ方をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用して、個の学びの充実や、集団での対話的学習の充実を図る。 ○全ての教室で「めあて」「問題」「考え」「まとめ」「振り返り」のカードを使い、授業の流れを明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○OJTの推進、校内研究・研修の工夫をする。 ○学びのエリアでの研究授業の公開をし合う。 ○研究授業において、事前授業の参観、協議をし、研究授業の質の向上を図る。 ○研修事項の伝達を推進する。 ○板橋教育支援センターを活用する。 ○板橋アカデミーの周知と推進をしていく。

